

第一回の議事の概要

議事	報告および説明内容
今回の「うねり性波浪」による被害について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山湾の被害状況全般、および伏木富山港の被害状況 13 件について報告された。 ・ 港湾の被害については、伏木地区と新湊地区で発生し、富山地区で発生していないことが報告された。 ・ 伏木地区北防波堤の被害についての詳細が報告された。
「寄り回り波」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「寄り回り波」の定義や特性等について報告 ・ 「寄り回り波」には、北北東、北東の2方向があることが報告された。
今回の「うねり性波浪」に関する波浪状況等について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伏木富山港の波浪観測結果の説明があり、伏木地区では周期が、富山地区では波高・周期共に過去最高であったことが報告された。 ・ 周期による波圧との関係および富山湾の海底地形等について説明が行われた。
ナウファスに関する情報について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海側観測地点のナウファスデータを示し、今回の波浪が、富山、輪島、柴山で既往最大観測値を記録したことが報告された。 ・ 日本海側観測地点のデータから、日本海沿岸を南下するにつれ、波高・周期が増大したことが報告された。 ・ 富山湾内の2つの観測点（富山、伏木）では波高に大きな差があることが報告された。

第一回の議事の概要

議事	意見および今後の課題等
「寄り回り波」について	<ul style="list-style-type: none"> ・「寄り回り波」の予測や通報システムの必要性、可能性について議論された。
今回の「うねり性波浪」に関する波浪状況等について	<ul style="list-style-type: none"> ・防波堤の被災メカニズムについては、今後詳細な検討が必要との意見が交わされた。 ・また、万葉ふ頭緑地の被災についても今後詳細な検討が必要との意見が交わされた。
ナウファスに関する情報について	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の波浪が過去の「寄り回り波」に比べ大きいことを確認した。 ・湾内で波高が大小分布することから、富山湾の複雑な海底地形の影響を受け、局所的に波エネルギーの集中が発生した可能性が指摘され、今後数値シミュレーション等で検証を行うことが提案された。
今後の検討方針（案）について	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会のスケジュールが示され、3回の委員会を4月下旬まで開催し、検討結果をまとめるものとされた。 ・各委員会での検討結果によっては（委員会の回数等について）柔軟に対応することも必要とされた。

高波発生メカニズム共有に関するWGの設立について

1. WGの目的

高波に関するそれぞれの技術情報を持ち寄り共有するとともに、専門的見地からの意見交換を行うため、関係部局が連携して「高波発生メカニズム共有に関するワーキンググループ」を設置する。

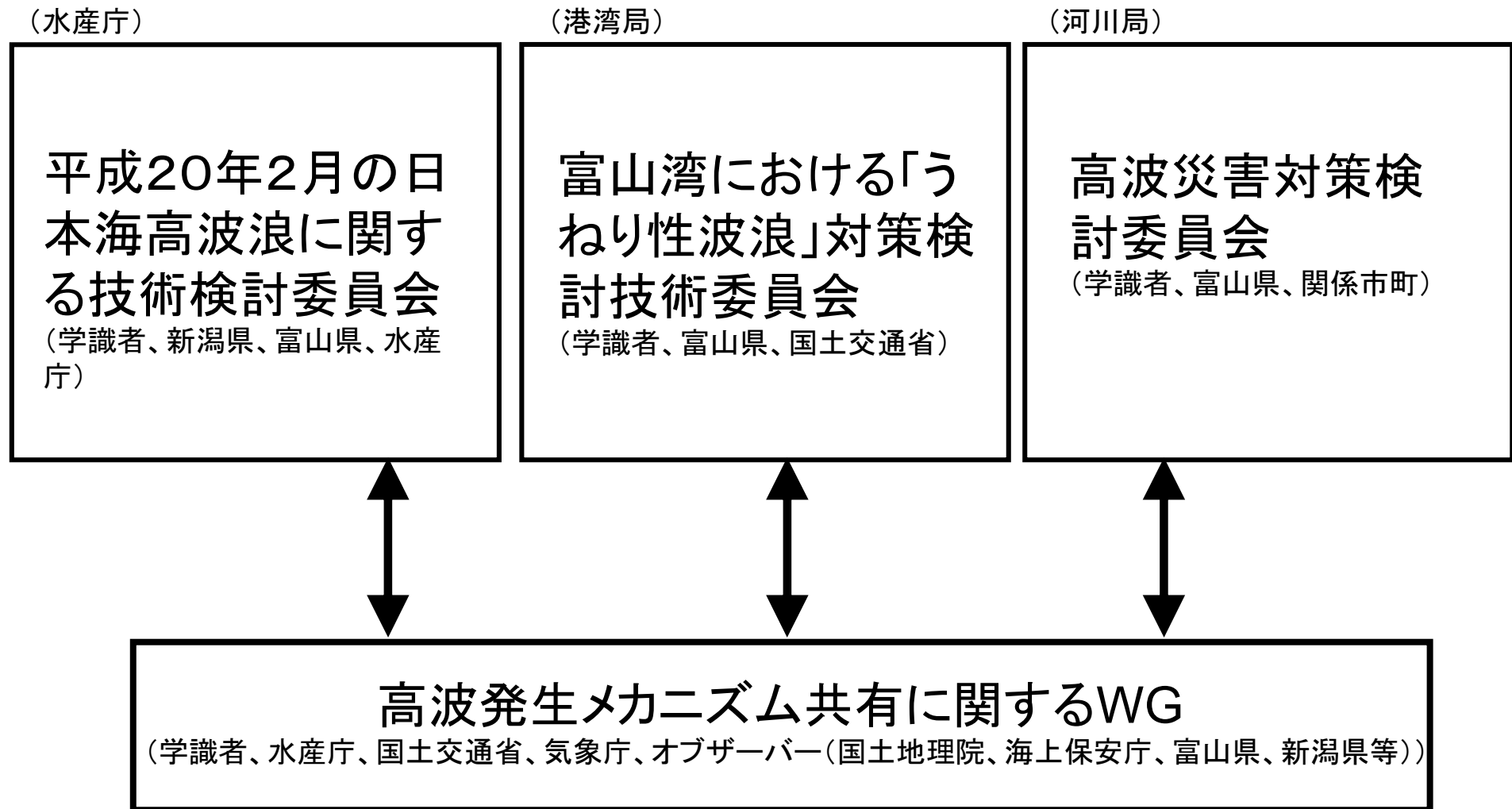
2. WGの構成

座長 佐藤 慎司 (東京大学大学院工学系研究科教授)
高野 洋雄 (気象庁地球環境・海洋部海洋気象情報室調査官(気象研究所併任))
中山 哲巖 (独立行政法人水産総合研究センター水産工学研究所水理研究室長)
平石 哲也 (独立行政法人港湾空港技術研究所海洋・水工部波浪研究室長)
福濱 方哉 (国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室長)
水産庁 整備課
水産庁 防災漁村課
河川局 海岸室
港湾局 海岸・防災課
港湾局 技術監理室
気象庁 企画課
北陸地方整備局 河川部
北陸地方整備局 港湾空港部

※敬称略、順不同

(オブザーバー) 国土地理院
海上保安庁
富山県
新潟県等

低気圧による高波に係る関係省庁等の連携について

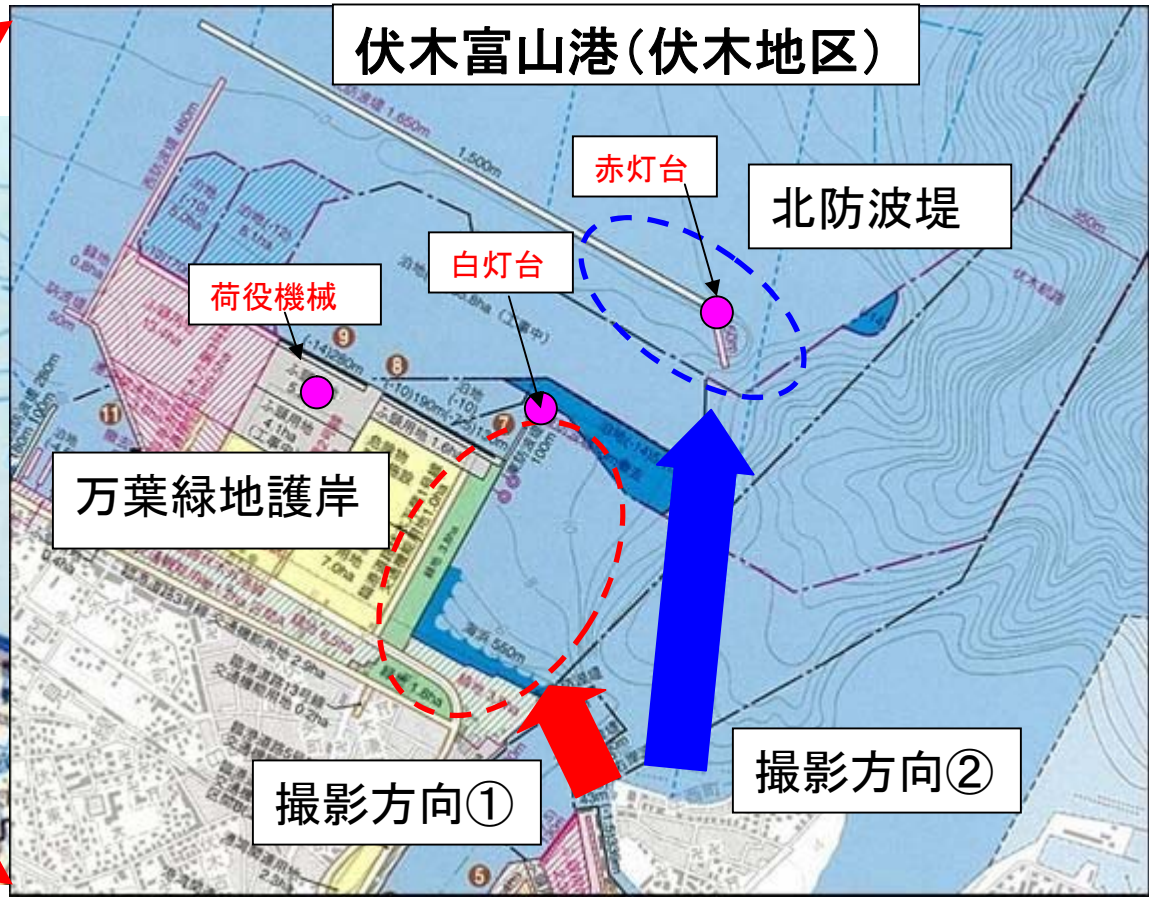


高波ビデオ映像

伏木富山港位置図



伏木富山港(伏木地区)



撮影日時
平成20年2月24日(日)9:30頃

撮影方向①: 万葉緑地護岸付近(赤線丸部分)
撮影方向②: 北防波堤の赤灯台付近(青線丸部分)